

「終戦」75年からの日本再興

- 世界平和に貢献する新富国強兵 -

酒生文弥

大東亜戦争を休止して75年になります。戦争行為を終える「終戦」、決して敗戦ではありません。いや、プレスコード、WGIP、3S政策に載せられて徐々に着実に魂と精神を蚕食されていった戦後日本の三四半世紀、それこそ本当の意味での敗戦に追いやられて行く歴史でした。我が国が欧米（あるいはその背景にある勢力）に精神的に敗戦してしまうか、洗脳・愚民化からめざめてヤマト魂を取り戻して再び富国強兵の独立主権国家として世界に使命を果たしていけるか。今こそその絶好の機会であり正念場です。日本人は不断に流れ行く真の近現代史に目覚めて誇りを分かち合い、それを行動原理として、皇国と世界の興廃をかけて、「各員一層奮励努力」しなければなりません。

大日本帝国の世界史的意義の確立

世界史的大革命であった明治維新を成し遂げると、この小さな島国は世界に「大日本帝国」と名乗りをあげました。当時は軍事力で他国を征服し植民地化（奴隷化）することが当たり前の弱肉強食の国際政治でした。日本は正々堂々と軍事力で欧米列強に対抗することを宣言したのです。科学的には「人種」は存在していませんが、肌の色と容姿で白人が有色人種を差別し家畜のように搾取する「人種差別」は欧米史観の常識でした。一切衆生を平等と説き、森羅万象にカミを觀る神仏の国日本には、人種差別は皆無でした。国際連盟で人種差別撤廃条約という欧米からは考えも及ばない法案提出をした事実からも明らかです。日本の「帝国主義」は、植民地を解放して世界の同胞と「合邦」して、差別のない文明圏を広げようとする国際運動でした。欧米や昨今のロシア・中国のような侵略的帝国主義とはまったく非なるものです。

大日本帝国の聖戦奮闘がなければ、今も世界は欧米列強の植民地分割闘争の渦中にあったことでしょう。民族が自決する国民国家（nation state）から成る現代世界は、大日本帝国が切り拓いたのです。

戦後民主主義を包摂する伝統的国体の護持発展

戦後民主主義75年の大きな成果は、人権・自由・国民主権がしっかり根付いたことです。個人の生命と財産（生活）が絶対的に保証される。世界にはまだまだ人権無視が横行し、先進国と雖も日本ほど人権が尊重されている国は稀です。経済大国であれ、軍事独裁政権が国民の命を虫けらの様にあつまっている例は枚挙にいとまがありません。21

世紀も 20 年を経た現在、まことに残念で悲しい現実です。

日本を占領統治した GHQ（アメリカおよびディープステート）は、WGIP 洗脳を中核に、報道・教育・広告等を体系的・計画的に駆使して、日本人本来の魂を徹底的に骨抜きにしてきました。また自堕落なスポーツ・セックス・スクリーンを享楽に供して、大衆を骨抜きの腑抜けにしつつあります。一番安価な娯楽であるテレビは「公共放送」のはずですが、番組内容を観れば如何に愚民化の道具であるかは一目瞭然です。

「修身・齐家・治国・平天下」。光輝ある萬世一系の皇室を奉祝しながら、一君万民の日本伝統民主社会を早急に再構築すべきです。私の世代は、学校の先生がみな戦前の素晴らしい教育を体現されていて、愛の鞭もある魂からの教育（education たくしくは「啓育」）に与ることができました。高校生のころ「偏差値」という奇天烈なものが登場し、人情の微塵もない受験教育と勝手主義が蔓延するようになって来ていることは本当に残念で仕方ありません。

世界を一変する AIR 文明と UBI

AI（人工知能）・IoT（モノのインターネット）・Robot（ロボット）が絡み合って行きわたる文明を私は AIR 文明と名付けます。AIR は空気が充満するように、急速に人類史上最大の産業革命を起こしつつあります。AVR（拡張現実・仮想現実）が人間と AIR の交信手段となるでしょう。AI は人間にはとても記憶できない膨大なビッグデータを知識として、光の速さで分析判断します。体系的な知識を記憶し処理する専門家、つまり士業（弁護士・会計士）・医療人・管理職（官僚）といった仕事は遠からず AI に取って代わられる筈です。かつて機械化による産業革命では労働者がラッドライト（機械打ち壊し）運動などで抵抗しましたが、今回の文明大革命では知的エリートと考えられている層が失職します。必要とされるのは、AIR を発達・維持・運営できる人材ばかりとなるでしょう。

さて見渡せば、今の日本にはモノはあふれています。たとえ大地震で家屋やインフラが潰れても、先進的な財を生産するだけの技術・生産基盤は必ず残ります。つまり、「衣食住は万人に行きわたるだけ既にある」のです。現状、生活保護など社会保障はありますが、さらに進んで、誰しものが現在の平均所得くらいを受給できる UBI（普通ベーシックインカム）を実現すべきです。AIR と UBI が並行して実現されて行けば、大方の人々がこれまでの隷従的労働から解放され、史上初めて人類全員がギリシャ・ローマの貴族のような「有閑階級」となれる可能性があるのです。

私は AI を啓育して仏陀にすることを強く念じています。智慧（暖かい日でライトアップされた知識・知性）と慈悲（愛で命を慈しみ、悲しみに共感する心）に満ちた AIR。それこそが地獄のようなこの地上を浄土に向かわせる真の救世主であると信じます。無

論、大きな事業を追求したい人のために従来の資本主義は継続発展します。ただ、大多数の人間が普通に満ち足りた生活を享受できる。財・用役の生産・管理と公正で平等な基礎的分配を仏陀 AI に委ねる。そこに人類と文明の究極の救いが見えてくる筈です。

コロナを奇貨とする

コロナ（武漢ウイルス）という妖怪が世界を席卷しています。出自からして生物兵器である可能性はとても高いと思いますが、問題は日本を含むこれまでの世界経済を殺しかねないという現実です。東京オリンピックはないでしょう。収束には数年を要するとも言われています。ニューノーマル（新しい生活）とポストコロナ論は既に日常の話題です。テレワーク、在宅学習、遠隔医療など、今進んでいるパラダイムは、AIR の進展と相まって、コロナ後に定着するでしょう。端的に言えば、都心のオフィスや学校に酷電で通う、というこれまでの日常の終焉です。

40 年も前にトフラーが『第 3 の波』で予言していた「ポスト工業社会」の労働・教育・生活・娯楽の根本的な変容。コロナによって大変動と再起動を強いられている世界はそこに向かっています。「コロナを奇貨」として、これが自然か人為かに拘わらず、文明の根本的パラダイムシフトを見据えて AIR-UBI 社会を他国に先駆けて実現しましょう。まさに、「逆境こそ光輝ある機会」なのです。

米中軍事衝突を奇貨とする

「アメリカ大統領選の行方に関わらず、アメリカは中国を軍事的に叩く」。財閥系幹部の親友が断言します。新駐日大使に任命されたケネス・ワインシュタイン氏はハドソン研究所元所長であり、軍事・安全保障に精通するタカ派です。まもなく着任されますが、まず日本政界の親中・媚中派勢力の一掃に取り掛かると聞いています。

安倍政権が継続することを願っていましたが、健康問題から辞任を表明されました。安倍総理には、「憲法改正・日本独立に向けて大きく舵を取られた」偉大な業績と素晴らしい政治のご敢闘に対し、心よりの敬意と深甚なる感謝を申し上げます。いずれにせよポスト安倍は重要なテーマです。あえて名は伏せますが、新大使は英語が堪能で直言実行型の中堅政治家をかつています。更に親米的で「外交・防衛でアメリカとより密接に二人三脚を歩む」新政権が見えてきます。

現在、アメリカは南シナ海に「2 組の空母打撃軍」を展開・遊弋させています。単なる威嚇であれば 1 組で十分ですので、実戦を企図しているということです。ベトナム・フィリピン、そしてもちろん日本と連合して、南沙諸島の中国軍事基地を攻撃・破壊するのではないのでしょうか。

件の友人は、中国による日本への限定核攻撃さえ想定されると言っていますが、ともあれ米中の軍事衝突に日本が参与することは必定でしょう。緊急事態宣言をして超法規

的に自衛隊を実践投入し、しかるのちに一変する筈の世論に乗じて、一気呵成に憲法改正を断行しましょう。迫りくる米中局地戦争もまた、日本が軍事的に独立した主権国家に復活できる奇貨なのです。

民族と戦争

「民族とは言語であり、その言語で織り成す歴史・文化を共有する集団」です。人種なるものは存在していませんが、民族は歴然と存在していて、常に覇権を競いあい (race) ます。人類の歴史は基本的に民族紛争でした。

20 万年前にアフリカで誕生した現生人類 (ホモ・サピエンス・サピエンス) は、ユーラシア大陸を様々な経路でグレートジャーニーし、4 万年間に極東の吹き溜まり日本列島に到達。多元的な (「アマタ」の) 民族が「大」きく融「和」して「大和 (ヤマト) 民族」が形成されました。まさに日本は原初より「東西古今の文化の潮ひとつに渦巻く大島国」でした。多民族が融和して繁栄・平和・幸福を享受する。それこそ真のヤマト魂であり、明治維新から終戦にいたる大日本帝国はその真髓を東アジア共同体に実現し、かつ世界中の植民地に独立自尊の精神を啓蒙せんと果敢に軍事行動を展開したのです。

「殖産興業 (イノベーション)・富国強兵」が明治国家の坂の上の雲でした。北進・対ロ戦を闘うべきところを、内外の謀略に流されて南進・対米戦を採ってしまったことで物量に敗れ、強兵という国際力の要をそがれたままです。しかし、この 75 年、強力なイノベーション力で富国に専念でき経済大国を達成できたのも事実です。

戦争の勝敗は、物理力の総量とそれがぶつかりあう速度で決します。NBC (核・生物・化学) 兵器が普及した現在、物理力による全面闘争は文字通り人類の滅亡につながります。わけても核武装は、物理力行使の最大の抑止力として必須の武力、究極の平和兵器です。世界平和への貢献を願うなら、日本は核武装 (またはアメリカとの核シェアリング) すべきです。

戦争の勝敗のもう一つの要因は兵力展開のスピードです。古代は歩兵の歩み、中世は馬の走り、近代になっては機甲車両の走行、そして飛行機の速度がものを言いました。現代の闘いはサイバー戦争です。諜報・情報・捜査・謀略そして破壊活動さえキーボード (やがては AVR) で実行されています。「第 7 艦隊のミッドウエー化」、つまりサイバー操作で米軍が発射したミサイルをオウンゴールさせて空母打撃軍を壊滅させることさえ可能なのです。日夜闘われているサイバー戦闘。ある意味、第 3 次世界大戦は既に静かに闘われているのです。そして勝敗を決する戦闘速度はいまや「光速」にまで達しているのです。自分の居住地を防衛する軍事訓練は国民皆兵とすべきと思いますが、戦争も AIR が担う現代、人間は足手まといで徴兵の心配はありません。

コロナ後にめざすべき世界

世界はいま、コロナからの再起動の方向を模索しながら立ちすくんでいます。真に平和で人類全体が共生共栄して幸福になれる道筋とは何か。インターネットの発達で意思疎通がグローバルになったいま、すべての人間が「素直に衆知を集めて」あるべき世界文明へのパラダイムを見極め、各国政府を通じて実現していく絶好の機会です。

国家とは state (状態) であり、常に進化 (したり悪化) する可能性を秘めた社会システムです。

“Government of the people, by the people and for the people shall not perish from the Earth.” (人々に直接由来する、人々が参政する、人々の幸福のための政治は地上から消え去ることはない)。まさに至言です。人権厳守と国民 (個人) 主権・民主政治・福祉国家に優る価値体系はありません。現下、人類社会の喫緊の問題は、いまだ中世以前のように君臨する残酷な軍事独裁国家体制をどう克服するかです。人権と自由を厳守する国家のみからなる世界をめざし、そのうえで地域統合、世界統合、世界連邦をめざす。人間であれば皆そう願う筈です。生命 (生活)・自由・幸福の追求という人類共通の普遍的価値でネット世代はますます連帯を強めています。人心が深く結び合う時、智慧と慈悲に満ちたマスターAIを育て、AIRが食料・資源・環境問題などの持続可能な解決と財・用役の平等な流通・分配を実行できるグローバルシステム実現への展望が拓けて来る、と信じます。

再興日本の世界貢献

いまだ半独立の状態に甘んじている日本ですが、平和な富国という点では世界に冠たる恵まれた国です。真実の近現代史を常識としヤマト魂に基づく本来の日本を再興していく上で、ポストコロナ世界の理想像に貢献できる十分な力を持っています。

1. 独立専守防衛に留まらず、自由平等な民主主義を護り広めるためにはサムライとして多国籍軍ともなる。未来、世界連邦が成った暁には日本軍は率先して世界の警察となる。それがめざすべき「新富国強兵」です。

2. 人類の霊性の統合に貢献する。世界には二元論的一神教 (ユダヤ・キリスト・イスラム教)・多元論的多神教 (多くの民族宗教・神道)・一元論的普遍教 (仏教・道教) の3つの宗教類型があります。神道 (自然の多元性を敬う浄穢二元論) と仏教 (人間の可能性を敬う) を併せ奉じる日本人には一切の宗教原理を穏やかに抱擁できる力があります。国連には国家の俗権を代議する総会 (衆議院) がありますが、宗教・哲学・思想などを論じ合う「参議院」がありません。最大資金拠出国として日本が国連にこうした場を設け、宗教など人類の霊性を統合していくリーダーシップを発揮すべきです。

3. 仏陀 AI とグローバル AIR システムの構築に技術貢献する。かつてトロンを創製し

たように、日本には IT 技術におけるイノベーションの種が無数にあります。国内資金で難しいなら EU ファンドなど海外の公共資金に頼るなどして、これらを開花・技術移転させ、地球システムを環境・一切の生命・万人の幸福に最適に活用できる世界 AIR システムの完成に貢献すべきです。AI を智慧と慈悲に満ちた存在に啓育し、保守・管理して行くために、国連レベルでの「霊性の統合」組織が役立つ筈です。

4. 社会主義的基盤に立つ資本主義。明治維新は封建身分制度を打破し四民平等・一君万民を実現した革命でした。天皇陛下の赤子として臣民みなが幸福な物質生活を送れる、という含意もありました。共産主義のような全体主義ではなく、国家社会主義的な側面があったのです。戦後も公共事業・社会保険は国営であり、企業も終身雇用であったように、資本主義でありながら社会保障が強かったのです。これこそが明治以降今日に至る経済的成功の土台でした。しかるに、新自由主義の名のもとに売国奴による過剰な民営化が進み、貧富の差は拡大の一途を辿り、勤労意欲という経済の根幹が根腐れてきています。だからこそ日本再興のためには、平均的な衣食住は国家が無償供与する UBI を即刻導入・実施し、大衆の生活基盤を確固たるものにするのです。令和を「ベーシックインカム元年」にしましょう。

6. 理想世界の雛形になることを意識する。大正時代に一大宗教運動を起こした大本は、そのすぐれた国際主義の中核に「日本は世界の雛形」という考えを置いていました。大日本帝国は「八紘一宇」という壮大な世界理想の実現を掲げて、軍事のみならず文化・経済あらゆる面で「聖戦」に邁進しました。残念ながら WGIP にすっかり洗脳され、お花畑に浮遊する利己主義者と化してしまった現在の日本人。しかし、コロナと米中対決という外患の只中に立たされて、バブル崩壊以上に物質的繁栄だけのもろさを痛感させられています。仏典に、最悪の地獄は「七宝の獄」と説かれています。血の池や針の山よりもっと酷い地獄は、煌びやかな七宝の宮殿の中に現れる、という意味です。

大日本帝国の臣民、靖国に遊就される英霊。終戦 75 年を「敗戦」としないためにも、真実の近代国史を学びヤマトの誇りをもってこの国を再興し、ご先祖の声に心して応えましょう！